

福祉サービス事業 フリーダム創生
生活介護事業（シオンの家）2021年事業計画書

従業員数

管理者（兼務）1名 サービス管理責任者 1名

生活支援員 18名（内非常勤 5名）看護職員 2名（非常勤）医師 1名（東永）

利用者数（定員 25名）

実利用者 身体障害者 16名（内車いす 16名）知的障害者 8名 合計 24名

【運営目標】

利用者が自立して日常生活、及び社会生活を過ごすために、排泄及び食事の介助、生産活動及び創作活動の提供を行う。また、地域との関係を重視し、市町村、他の障害者事業所、相談支援事業所、医療機関、学校などの機関との連携を図ります。障害福祉サービスの事業等の人員、設備及び運営に関する基準に定める内容のほか、その他関係法令等を遵守し、事業を実施するものとする（運営規定より）

1. 感染予防への知識を深め、予防を行う
2. 事業所内の作業、販売、行事等を通して心身の成長、社会との関わりを持つ
3. 利用者本人・家族・他施設・相談支援員と連携を組み、生活をサポートできる支援を目指す
4. 5つの虐待（身体的、ネグレクト、心理的、性的、経済的）の防止に努め、利用者の尊厳を守り、一人の大人として接する。
5. 個人情報、プライバシーを常に意識し、慎重に取り扱う。

【サービス（支援）内容】

コロナウィルスの感染予防を行いながら、どのような支援ができるのか。サービス担当者会議で話し合い、利用者に対しての個別支援計画を立て、その内容に基づき職員、家族、他利用機関と連携を取りながら支援していきます。

主な内容として、身体介護（排泄、食事、移乗）、生産活動（内職、駄菓子ラッピング、紙ちぎり）、販売、創作活動（絵画）、生活相談（カウンセリングルームの設置）、健康管理（生活支援員によるリハビリ、週一回の訪問歯科、バイタル、月一回の医師の診察、看護師の様子観察）、その他必要となる介護、支援、助言を行います。

【支援の効果と課題】

1. 感染予防への知識を深め、予防を行う

効果：感染予防（特にコロナウィルス）を行う事で命を守り、感染した際の事業停止による家族の負担、ADLの低下を防ぐ

課題：ウィルスにより予防の方法が異なるため、相応の知識が必要。また、感染に対する意識を持続する必要がある

2. 事業所内の作業、販売、行事等を通して心身の成長、社会との関わりを持つ

効果：販売等を通して社会参加し、人々とのコミュニケーションを図る

課題：コロナウィルスの影響で外出の機会が少なくなり、ストレスや社会参加の減少につながる可能性がある。感染予防をしながら外出の機会を持つ必要がある

3. 利用者本人・家族・他施設と連携を組み、生活をサポートできる支援を目指す

効果：連携をとることで利用者の生活の一部として作業所からサポートができる

課題：連携をとるためには家族・施設・本人がお互いに意識をして、細やかな情報の交換が必要

4. 5つの虐待（身体的、ネグレクト、心理的、性的、経済的）の防止に努め、利用者の尊厳を守り、一人の大人として接する。

効果：利用者一人一人の尊厳を守ることで、自分らしい生活を過ごすことができる

課題：対利用者ではなく友達のような感覚に陥ってしまい、言葉遣いや内容が利用者の気持ちを傷付けてしまう恐れがある。

5. 個人情報、プライバシーを常に意識し、慎重に取り扱う

効果：個別支援や介護をするうえで必要な情報であり、プライバシーを守ることで信頼関係を気づくことができる

課題：個人情報、プライバシーを意識できないと、世間話、噂話などで漏洩してしまう恐れがある

【課題点】

感染予防を行いながら、販売活動を行い、売り上げを伸ばす必要がある

街頭販売のみならずインターネット販売や委託販売、納品を行う事で感染のリスクを減らしていく。